

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350722

研究課題名(和文) 体育を教える教員の職能とその発展に関する研究

研究課題名(英文) Professional teaching competency and development of physical education teachers

研究代表者

兄井 彰 (Anii, Akira)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20258560

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、小・中学校、高等学校の教員に対してインタビューを行い、体育を教える教員の職能とその発展過程を定性的に検討した。その結果、体育教員の職能は、「豊富な運動経験」「環境・立場」「研修・研究」「同僚」「学習者の変容」「日々の実践の省察と再構築」「過去の職業経験」であることを確認した。加えて、この職能を保健体育専攻の学生及び現職教員がどの程度備えているかについて、質問紙調査により定量的に検討した。その結果、職能は、「授業をする力」「マネジメント能力」「人間的魅力」「子どもへの対応力」「教員として必要な知識」「教育的信念」「危機管理能力」であり、学生も教員も一定程度備えていることが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study aims at comparing the level of teaching competencies of physical education teachers in each education phases (elementary school, junior high school, high school) in accordance with, using in qualitative and quantitative method. By an interview survey with expert teachers, the competency of physical education teachers is based on "sports experience", "environment / position", "practice / research", "colleagues", "changes of learners", "reflection and reconstruction of daily practice" and "professional experience". In addition, the questionnaire survey on teachers and students shows that the qualities of physical education teachers are "ability to do classes", "management ability", "human appeal", "ability to respond to children", "knowledge necessary for teachers", "belief" and "management ability".

研究分野：身体教育学

キーワード：体育 職能 定性的研究 定量的研究 教員

## 1. 研究開始当初の背景

現在、児童生徒に対する指導力等に問題がある教師、いわゆる「指導力不足教員」が社会問題化している。文部科学省調査では「都道府県・政令指定都市から『指導力不足教員』と認定された公立学校の教員が、2006年度は450人で…(中略)…ピークの04年度が566人、05年度が506人」(時事通信社2007年9月12日)であるとしている。その一方で、教職10年経験者研修制度、教員免許更新制度、教職大学院制度など、教育政策の進行に伴って、教員の資質向上を体系的に助長する研修システムが整備されつつある。さらに、中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会が「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(審議のまとめ)」を2012年5月15日に公表し、現職並びに新任教員の資質能力の向上について改善策を明らかにしている。

このように指導力不足教員の専門的力量的形成・向上や現職教員のキャリア形成など、「教員の質」をいかに確保するかが学校教育の質的向上のために喫緊の課題である。この「教師の質」を確保するためには、教員として求められる力はどのようなものであるかを明らかにしておくことが今後の具体的な改善方策を考える上で重要であろう。この教員に求められる力は、資質能力や力量という言葉で表現されることが多いが、本研究では、生まれつきの性質、才能を意味する「資質」や単なる物事をなし得る力とされる「能力」、人の能力の大きさの度合いである「力量」ではなく、後天的に身につけることが可能である職業・職務上の能力である「職能」(広辞苑第六版)という用語で表現する。

この教師の職能については、教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(審議のまとめ)においても、これから教員に求められる資質能力として、一般的な事柄が示されている。しかし、各教科を教える上で必要とされる教員の職能については、具体的に示されていない。体育についても同様で、知識だけでなく、運動技能を学習内容とする教科であるため、他の教科と異なる独自の職能が存在すると考えられる。この体育を教える教員の職能については、今まで、数多くの提案や研究がなされている。例えば、武隈(1992)は、体育に関する職能の内容について、情熱や人間性といった人格的側面と確かな教育・体育観や理念を基底として、児童・生徒を理解する能力、体育の指導能力、体育の経営能力、学校や教育・体育をとりまく諸条件の認識能力から構成されることを示している。また、松田(2007)は、中学校の保健体育教師に対する調査を行い、保健体育教師は、「授業構想力」「人間関係力」「運動指導力」「情報活用力」「生徒管理力」を職能として意識していることを明らかにしている。この他に、教師はこうあるべきと

する主観的な規範的提案や授業を受ける側である子どもや大学生に質問紙調査を行い間接的に検討した研究が散見される。しかし、体育を指導する教員の立場から職能を検討した研究はほとんど行われていない。特に、体育授業において優れた実践を行っている教員が、職能をどのように捉え、発展させているかについて検討することは、職能構造について明確にできるだけでなく、体育教師の職能発展とキャリア形成のための具体的な指針を示すことができると考えられる。

体育教師の職能については、これまで多くの実践者や研究者間で論じられてきたが、教師はこうあるべきとする主観的・経験的な望ましい体育教師像を示してきた感は否めない。それに対して本研究は、優れた実践を行っている教員の職能について実証的なデータに基づいた学術的な知見を提示できると考えられる。さらに、異なる校種間で体育を教える教員の職能を比較・検討することにより、より詳細に職能構造と発達過程を明らかにできると期待される。さらに、優秀な実践を行っている教員に対するインタビュー調査で得られて定性的なデータから体育を教える教員の職能を明らかにした上で、この職能を教員養成大学の保健体育専攻の学生がどの程度備えているかを質問紙調査により定量的に検討するという点に独創性があると思われる。

このような研究成果を産出することにより、これから体育を教える教員をめざす学生がどのような職能を身につけておくべきか、学生がそうした職能やキャリア・デザインを身につけて行くためには、どのようなカリキュラム・デザインを考へて行かなければならないか、さらに、現職教員の資質能力の向上に必要な方策はどのようなものであるかといった現在直面している課題に対して解決の糸口を提示することができるものとする。

## 2. 研究の目的

本研究では、小学校、中学校、高等学校の各校種で優れた実践を行っている数多くの教員に対してインタビューを行い、定性的研究手法により、体育を教える教員の職能とその発展過程を明らかにする。その上で、このような職能を、教員養成大学の保健体育専攻の学生がどの程度備えているかについても解明する。そのために、以下の3点について、検討する。

(1) 小学校、中学校、高等学校で優れた実践を行っている教員が、体育を教える教員の職能をどのように捉え、発展させてきているかについて明らかにする。

(2) この体育を教える教員の職能とその発展過程について、校種間で比較し、全体的な職能構造とその発展要因を明らかにする。

(3) その上で、この体育を教える教員の職能

について、教員養成大学の保健体育専攻の学生がどの程度備えているかについて、質問紙調査を行い、定量的に明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究の目的は、体育を教える教員に求められる職能とその発展について明らかにすることである。そのために、九州各県の優れた中学校及び高等学校の保健体育教員にインタビュー調査を行い、定性的研究手法で求められる職能について明らかにする。

これに加えて、小学校において優れた実践を行っている教員にインタビュー調査を行い、これら結果を踏まえて、校種間で求められる職能とその発達を比較し、職能構造と発展過程の全体像を明確にする。

定性的研究では、優れた実践を行っている高等学校保健体育教員に対して、体育を教える教員に必要な職能について、約 60～90 分間の半構造的インタビューにより調査を行う。調査で得られたデータは、文字情報に変換し（テキスト化）、テキスト分析ソフトウェアを用いて、「ユニット化」「タグ化」「サブカテゴリー化」「カテゴリー化」による定性的データの段階的分析法により処理を行う。

さらに、中学校の体育教員及び教員養成課程の学生が、これまでにまで明らかになった体育を教える教員に求められる職能をどの程度備えているかについて、質問紙調査により定量的に調査し、教員と学生がどの程度有しているについて検討し、職能モデルを明らかにする。この定量的研究では、調査で得られたデータに共分散構造分析を行い、教員及び学生が備えている職能についてモデルを作成し、その職能構造を明らかにする。

### 4. 研究成果

#### (1) 定性的研究

体育を教える教員が備えるべき職能について、優れた授業実践を行っている教員に対するインタビュー調査を行い、定性的研究手法で、その構造と発展過程について、異なる校種間で比較・検討を行った。

中学校及び高等学校で優れた授業実践を行っている体育教員における、体育を教える教員に必要な職能

以下の基準を満たす対象者を関係機関及び教育委員会の協力を求め選定し、25 名に対して、質問紙及び半構造的インタビュー調査を行った。

- ・20 年以上の教職歴を有している。
- ・大学の附属学校教諭や期派遣研修員、主幹教諭、指導主事などの経験を有している。
- ・体育に関する著書、研究論文、紀要、報告書などの執筆に携わった経験を有している。

・優れた教師であるとの客観的評価を得ている。

その結果、体育教員における職能形成要因として、「豊富な運動経験」「環境・立場」「研修・研究」「同僚」「学習者の変容」「日々の実践の省察と再構築」「過去の職業経験」を抽出した。また、これらの要因は、「情熱・向上心」「運動・運動指導に関する知識」「授業設計力」「実技力・示範力」「集団統率力・授業展開力」「コミュニケーション力」「観察力」「動きのイメージの伝達力」「責任感・使命感」といった体育教員が必要とされる職能に対して大きな影響を及ぼすことも確認された。このことにより体育教員に必要な職能とその形成要因の関係について、ある程度のモデル形成が可能になったと考えられる。

また、「研修・研究」への参加や取り組み、日々の授業実践における「思考と試行のサイクル化」は、これまでに明らかになっている上記の職能のほとんどにおいて、形成上の重要な要因として作用していた。さらに、この「研修・研究」と「思考と試行のサイクル化」の2つの要因は、「新たな知識の方法の習得」を促し、その上で、「授業実践での思考・試行」が実施でき、そのことにより、「自身の授業の形の確立」がなされるという職能形成の方向性がうかがえる事例が多いことも確認することができた。

以上の中学校及び高等学校で優れた授業実践を行っている体育教員が捉える体育を教える教員が必要とされる職能について、その構造の要因と発展過程の方向性について基本的な枠組みを示すことができたと考えられる。

小学校で優れた授業実践を行っている体育教員における、体育を教える教員に必要な職能

中学校及び高等学校で優れた授業実践を行っている体育教員を選定したほぼ同じ基準で、22 名の小学校教員に対して、質問紙及び半構造的インタビュー調査を行った。

その結果、中学校及び高等学校で優れた授業実践を行っている体育教員と同じく、「環境・立場」「研修・研究」「同僚」「学習者の変容」「日々の実践の省察と再構築」「過去の職業経験」を、小学校において体育を教える教員に必要な職能の形成要因として抽出した。また、これらの職能形成に影響を与える要因として、「情熱・向上心」「運動指導に関する知識」「授業設計力」「集団統率力」「コミュニケーション力」「観察力（見立て）」「イメージの伝達能力」を確認した。これらの職能や形成要因は、中学校及び高等学校で優れた授業実践を行っている体育教員が捉えてもものと類似しており、校種の違いで大きな差異は無いと推察できる。

しかし、小学校においては、体育授業が日常の学級運営に大きく影響を及ぼすことや

子どもの自尊感情に対する影響も大きいことなど、校種間において細かな相違点が見られた。このような相違点を今後検討していくことで、体育を教える教員に必要な職能及びその発展過程についてより詳細に明らかにできると考えられる。

## (2) 定量的研究

体育を教える教員に必要な職能について、小学校、中学校、高等学校で優れた授業実践を行っている教員に対するインタビュー調査の結果に加えて、先行研究や文献で明らかになっている体育を教える教員の職能を基に、93項目から成る質問紙を作成した。この質問紙を用いて、中学校教員212名、教員養成大学で保健体育を専攻している学生194名に対してどの程度この職能を身に付けているかについて調査を行った。

この調査データに対して因子分析を行い、定量的研究手法で体育を教える教員に必要な職能について検討した。

その結果、因子「授業をする力」、因子「マネジメント能力」、因子「人間的魅力」、因子「子どもへの対応力」、因子「教員として必要な知識」、因子「教育的信念」、因子「危機管理能力」が抽出された。その後、体育を教える教員に必要な職能についての各因子の内的整合性を検討するためにCronbachの係数を算出した結果、十分な内的整合性が示された。

その後、属性（教育大学に通う保健体育科の学生・中学校で体育を教える教員）、教育大学に通う保健体育科の学生の学年、教員志望の有無、教育実習の経験回数、子どもに関わるボランティア経験の有無、中学校で体育を教える教員の性別、年齢や教員経験年数、研究発表会等での授業実施回数や授業参観回数、職場でどの程度承認されていると思うか、現在勤務している学校において職員会議や学年会議などでどの程度発言できるか、今後とも今勤めている学校で勤めていきたいか、教員になったことに対してどのように感じているか、日々の暮らしの中で楽しいと思うことがあるかをそれぞれ独立変数とし、抽出された7つの因子の下位尺度得点を従属変数とした一要因の分散分析を行った。その結果、それぞれにおいて有意な差が見られた。その詳細については、結果と考察に述べた通りである。

以上のことから、教育大学に通う保健体育科の学生と中学校で体育を教える教員が捉えている体育を教える教員に必要な職能は、授業をする力、マネジメント能力、人間的魅力、子どもへの対応力、教員として必要な知識、教育的信念、危機管理能力で構成されていることが明らかになった。また、職能に対する自信度を高める要因としては、教育大学に通う保健体育科の学生と中学校で体育を教える教員でそれぞれ以下のようなものが挙げられた。まず、教育大学に通う保健体育

科の学生に関しては、教育実習の経験や子どもに関わるボランティアの経験がある者が、教育実習の経験や子どもに関わるボランティアの経験のない者に比べて、体育を教える教員に必要な職能が身に付いていると考えていることが明らかになった。このことから、教育大学に通う保健体育科の学生は、教育実習の経験や子どもに関わるボランティアの経験によって、体育を教える教員に必要な職能を身に付けていると考えるきっかけになっており、職能に対する自信度を高める要因であると推察される。次に、中学校で体育を教える教員に関しては、中学校で体育の授業を行った経験年数が長い者や研究発表会等での授業実施や授業参観回数が多い者、職場環境や職場の人間関係が良好であると感じている者が、中学校で体育の授業を行った経験年数が短い者や研究発表会等での授業実施や授業参観回数が少ない者、職場環境や職場の人間関係が良好ではないと感じている者に比べて、体育を教える教員に必要な職能を身に付けていると考えていることが明らかになった。このことから、中学校で体育を教える教員では、中学校で体育の授業を行った経験年数や研究発表会等での授業実施や授業参観を重ねること、職場環境や職場の人間関係が良好であることによって、体育を教える教員に必要な職能を身に付けていると考えるきっかけになっており、職能に対する自信度を高める要因であると推察される。

## < 引用文献 >

武隈 晃、教師に求められる資質、体育科教育法講義 - 5、1992、189-193

松田恵示、調査研究からみえてきた教師の職能成長、教師として育つ 体育授業の実践的指導力を育むには、(7-2)、2010、122-127

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

本多壮太郎、兄井 彰、中学校のエキスパート・ティーチャーが捉える体育教師の職能に関する定性的研究、福岡教育大学紀要第5分冊、査読無、2014、139-149

[学会発表](計5件)

一實孝浩、兄井 彰、現在までに出版された文献における陸上運動の短距離走の指導内容、九州体育・スポーツ学会第64回大会、2015、「西九州大学」、「佐賀」

兄井 彰、本多壮太郎、主観的習得度から捉えた体育を教える教員の職能、日本体育学会第66回大会、2015、「国士舘大学世田谷キャンパス」、「東京」

本多壮太郎、兄井 彰、高等学校体育におけるエキスパート・ティーチャーの職能形成要因

に関する研究、日本体育学会第 66 回大会、2015、「国土舘大学世田谷キャンパス」、「東京」

永里 健、竹内奏太、長嶺 健、小津和俊洋、末永和寛、兄井 彰、体育を教える教員に必要な職能について、九州体育・スポーツ学会第 63 回大会、2014、「別府大学」、「大分」

本多壮太郎、兄井 彰、エキスパート・ティーチャーが備える職能の形成要因に関する研究、日本体育学会第 65 回大会、2014、「岩手大学」、「岩手」

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

兄井 彰 ( ANII , Akira )

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20258560

### (2)研究分担者

本多 壮太郎 ( HONDA , Sotaro )

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10452707